

## IV 溪流生態系の再生

### <主要施策の取組状況>

#### 1 溪流生態系の調査モニタリングと保全・再生手法の検討

##### ① **FS** 溪流生態系の調査モニタリングと保全・再生手法の検討

- ・ 溪流生態系の保全・再生を踏まえて、溪畔林整備の効果検証のため、整備実施箇所で植生等のモニタリング及び総合解析を実施し、この結果から得られた知見をもとに、森林整備の設計担当者向けとして、森林のタイプ毎に配慮すべき事項など初期段階の整備技術をまとめた「溪畔林整備の手引き(平成29年3月策定)」を作成した。

##### ② **FS** 魚類等による溪流環境の評価手法の検討

- ・ 溪流環境調査として、県有林内で溪畔林整備を行った河川で、魚類採捕調査、胃内容物の分析による食性調査、底生生物調査、流下生物調査、落下生物調査、付着藻類調査、環境測定(水質、流速、河床構成、河川上空の開空度)を継続し、溪畔林整備の効果検証を含めた溪流環境の評価手法の検討を行った。また、平成28年度は流下生物の日内変化※についても調査を行った。

※ 日内変化 1日における時間による変化

##### ③ **FS** 淡水魚類のモニタリングと保全方策の検討 (VI-1-④)

- ・ 相模川水系1支流および酒匂川水系3支流で、丹沢在来のヤマメの採捕調査を行った
- ・ この結果、相模川水系で採捕したヤマメは僅かだった。一方、酒匂川水系のA沢では70尾、B沢では70尾、C沢では35尾のヤマメを採捕し、外部形態の分析を行うとともに、一部の支流で遺伝子解析を行った。

#### 2 溪流生態系の保全・再生事業の実施

##### ④ ダム湖堆砂抑制のための上流における土砂流入防止対策

- ・ 治山工事(6箇所)を実施、ダム湖等への土砂流出の防止を図った。

##### ⑤ 溪流への土壌流入防止対策 (I-3-⑥、V-1-②)

- ・ 林床植生衰退地(相模原市緑区青根:神ノ川熊笹ノ峰線)において植生保護柵を主な工種とする土壌保全工を実施し、土壌流出の防止を図った。[H28実績:10.62ha]

##### ⑥ **重点** 溪畔林の整備

- ・ 溪畔林整備として、仲ノ沢で植生保護柵、丸太筋工等、大滝沢で丸太筋工等を実施し、土壌保全を図った。[H28実績:植生保護柵320m、丸太筋工60m(仲ノ沢)丸太筋工等26m(大滝沢)]

○ダム湖堆砂抑制等のための土砂流入防止対策等実施状況(H28)

砂防工事	治山工事
なし	6箇所

○溪畔林整備事業実施状況（H28・仲ノ沢及び大滝沢）

本数調整伐等	植生保護柵設置	丸太筋工等土壌保全工
0.0ha	320m	86 m

○溪畔林整備の手引き



○溪畔林整備で設置した植生保護柵  
[山北町玄倉地内 仲ノ沢]



○溪畔林整備で設置した丸太柵  
[山北町玄倉地内 大滝沢]



○溪流環境調査（底生生物調査）の様子



○事業実施位置図（位置情報のある事業のみ掲載）

